

原子番号	元素記号	元素名	元素と切手について	選ばれた1切手	切手データ (発行国、発行年、説明、 画像縮小率など)
100	Fm	フェルミウム fermium	アインスタイニウムと同じく水爆実験で発見された。その後の経緯も同じで、当初秘匿されていた。名前の由来は原子物理の先駆者、原子炉の生み親エンリコ・フェルミ。フェルミはアメリカの原爆開発計画「マンハッタン計画」にも参画しているが、水爆には反対していた事を考えるところのネーミングは痛烈な皮肉とも受け取れる。		イタリア 1967 48%
101	Md	メンデレビウム mendelevium	カリフォルニア大学バークレー校のチームが、当時出来たばかりの99番元素アインスタイニウムに、サイクロトロン加速器を使って加速したα粒子を一晩照射して合成に成功した。使用に供したアインスタイニウムは少なく(10億個)、賭けに近い実験と言われた。元素名は現在の元素周期表を予言入りで提案したメンデレーエフに因んだ。		ロシア(ソ連) 1969 周期表発見100年 45%
102	No	ノーベリウム nobelium	発見はスウェーデン、ロシア、米国と三つどもえの様相を呈したが、最終的には第一発見は米国、元素名は最初に発見を主張したスウェーデンが提案したノーベリウムに決着した。名前はノーベル賞を創設したアルフレッド・ノーベルに因んだもので、新元素名に争いは無かった。用途は研究用。		スウェーデン 2001 59%
103	Lr	ローレンシウム lawrencium	1961年にカリフォルニア大学バークレー校で、98番元素のカリホルニウムに5番元素ホウ素のビームを照射して合成に成功した。サイクロトロンの発明者アーネスト・ローレンスに因んで命名された。当初元素記号はLwであったが、1963年IUPACは現行のLrに改めた。研究用に供される。		セントビンセント 1991 46%
104	Rf	ラザホージウム rutherfordium	ロシアが1964年、米国は1969年、104番元素合成成功と発表。ロシアに発見の優先権があるはずだが、その後の追試が不調で問題がこじれた。命名について米国の威信をかけた争いが続き、その間もIUPACやCAS(米国化学会)も介在する事態となつたが、IUPACの提案したラザホージウムでようやく決着した。解決まで33年もかかった。		ニュージーランド 1971 アーネスト・ラザフォード (原子核の存在を証明) 63%
105	Db	ドブニウム dubnium	米国は7番元素の窒素ビームを98番元素のカリホルニウムに照射して合成。一方ロシアは10番元素のネオンビームを95番元素のアメリシウムに照射して成功した。両者の争いは20年続き、IUPACは、名前はロシアの都市ドブナに因むドブニウムとし、最初の発見者は米国として、両国に華を持たせる形で決着した。用途は研究用。		ハンガリー 1966 ドブナ研究所10年 46%
106	Sg	シーボーギウム seaborgium	超ウラン元素発見で1951年にノーベル化学賞受賞した、グレン・シーボーグ(1912-1999)に因んで1997年に命名。生前に元素名となった初のケース。生涯で発見に寄与した元素は、プルトニウム、アメリシウム、キュリウム、バーコリウム、カリホルニウム、アインスタイニウム、フェルミウム、メンデレビウム、ノーベリウムの9個。		モルディブ 1995 44%
107	Bh	ボーリウム bohrium	ドイツの重イオン研究所の大型線形加速器UNILAC(全長120m)を使って、83番元素ビスマスの薄膜に24番元素クロムのビームを照射して生成させた。当初ロシアも発見を主張し、元素名にはニ尔斯ボリウムの提案もあったが、IUPACはロシアのデータを信頼性不十分で却下、元素名はフルネームの前例がなくボーリウムに落ち着いた。		デンマーク 1963 ボーアの水素原子モデル 74%
108	Hs	ハッシウム hassium	ドイツの大型線形加速器UNILACを使って、82番元素鉛の薄膜に26番元素鉄のビームを照射して、108ハッシウムを3個合成することに成功した(1984年)。元素名は重イオン研究所が所在するヘッセン州のラテン語名のハッシャーに由来。2004年には四酸化ハッシウム(HsO_4)が合成され、現在最も原子番号の高い化合物とされる。		ドイツ 1992 46%
109	Mt	マイトイリウム meitnerium	ドイツの大型線形加速器UNILACを使って、83番元素ビスマスの薄膜に26番元素鉄のビームを1週間照射して、109マイトイリウムを1個生成することに成功した。たった1個では少なすぎるとの反省から、IUPACはそれ以降、ある程度の数がないと非認定とした。元素名はオーストリアの女性物理学者リーゼ・マイトナーに因む。		ドイツ 1988 63%
110	Ds	ダームスタチウム darmstadtium	ドイツの大型線形加速器UNILACを使って、82番元素鉛の薄膜に28番元素ニッケルのビームを照射して生成させた。毎秒数兆個照射し、110ダームスタチウムが4個、1994年に得られた。元素名はドイツの重イオン研究所のあるヘッセン州ダルムシュタット市に因む。切手はヘッセン州の民族舞踊で発見を喜んでいるかのようだ。		ドイツ 1993 40%